

R3年 事業報告 (R3年1月～R3年12月まで)

押し花合同会社 花ことば
代表社員 押川 亘

事業報告

当事業所は、5年目を迎えた。

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響がみられた1年だった。休校や学級閉鎖などがあり、運動会や学習発表会等の行事も制限が見られた。12月には都城市でも新型コロナウイルスが蔓延し始め、1年を通して制限と我慢を強いられた。その中で、花ことばでできる事、子供たちが楽しく活動できる、身体を動かしてストレス発散ができないかなど、感染対策を行いながら、屋内での活動について検討しながら療育を実施してきた。

当事業所では、次亜塩素酸の消毒を利用し、体温測定、手指消毒、おもちゃの消毒、個々のタオル使用(紙タオルも含)など感染しない、広めないためにできる事を考え実施してきた。研修等への参加はほとんどできなかったが、事業所内で話し合いを行い、利用児童の成長や課題等について検討し、次年度の課題に対する支援方法について考える事ができた。

児童発達支援では、未就学児(保育園や認定こども園等に通園している子どもも含)に対して、季節行事に合わせた製作を取り入れながら活動を行ってきた。時期をみながら公園での活動を取り入れたり、花ことばのプレイルームを活用し、サーキットを行い身体の使い方を学んだり、ストレス軽減を図る様努めた。

放課後等デイサービスでは、カードゲームやルールのある遊びを行い、お友達と交渉をしながら関わるよう支援を行った。お友だちと一緒に活動をする、遊ぶという事の楽しさを支援している。また、言語聴覚士と作業療法士による個別療育を行っている。個別療育は、視覚的課題を言語化し、ヒアリング向上と語彙理解向上に努めコミュニケーション力を高めることや、サーキット活動から身体の使い方を学ぶ事や巧緻性向上に繋げられるよう支援をしている。言葉数が少なく、思いを訴える事が不十分で、行動で表現している子どもや目で訴えている子どもたちに対して、代弁や言葉の使い方を示す事でやり取りができる事を伝えるよう支援を行ってきた。保育所等訪問支援では、新型コロナウイルスの影響を見ながら、言語聴覚士や保育士が訪問し、集団生活の中で子どもが困っている事や苦手としているところに対する支援方法について検討や助言することができた。

◎多機能型事業所

児童発達支援事業		
対象者	未就学児	1日3～5名受け入れ
定員	放課後等デイサービスと合わせて 10名	
営業曜日、時間	月・火・木・金・土9：00～17：00	

放課後等デイサービス		
対象者	就学时（18歳未満）	1日4～6名受け入れ
定員	児童発達支援と合わせて10名	
営業曜日、時間	月・火・木・金・土15：00～17：00	

※夏季休暇などの学校休業日は上記に限らない場合有り

保育所等訪問		
対象者	未就学児、18歳以下の児童	
定員	制限なし	約30名/月
営業曜日、時間	月・火・木・金9：00～17：00	